

キャンプ実習に関する意識調査

— 教員養成大学カリキュラムにおける授業実践を通して —

西島 大祐 (初等教育学科・講師)

A Survey of the Organized Practice Training Camp for the University Students in Their Teacher Training Programs

Nishijima Daisuke

Abstract

This paper examines the impact of the organized practice training camp experiences for the University students in their teacher training programs. An analysis of questionnaires submitted by participants before and after the camps indicates that there is potential for the development of their understanding of the value of an outdoor program. Furthermore, the paper reports that the educational camps in the teacher trainings have an impact on the improvement by the participants in their imagines of the camp.

Keywords: Training for Teacher, Outdoor Education, Organized Camp

キーワード：教員養成、野外教育、キャンプ

はじめに

ここ近年、子どもの遊び場の減少や環境問題を背景に、子どもの自然体験の重要性が強く叫ばれるようになった。教育現場における子どもの自然体験の必要性は学習指導要領にも明記されている通りであるが、近年では公立の小学校や中学校において長期自然体験を必須化しようという声も高くなっている。また、自然体験活動の必要性や教育的効果については「飯田、井村、岡村などにより多彩な研究が行われる」(岡島ら、2006年)など、この分野に関する報告や論文も多く存在している。しかしながら多くの教員が豊かな自然体験を子どもに指導・支援する能力や資質を十分に備えているかといえば、なかなかそうとは言い難い

現状があると考えられる。若い世代の教員の中には、豊かな自然体験があまりないまま育った者が多いのではないかと考えられる。教員自身の自然体験の減少が現在の子どもの自然体験の減少に繋がっていると危惧されるのである。

鎌倉女子大学児童学部教育学科では2007年度より、「自然の中での活動の重要性を理解し、子どもたちの遠足や集団宿泊行事に対応できる指導力を身につけていく」ことを目的とした『キャンプ実習』が実施されている。

著者は本紀要においてこれまで数年にわたり、幼児教育者の養成を目的としたキャンププログラムの効果について検討を重ねてきた。そして「幼稚園教諭もしくは保育の現場で働くことを目指す

学生がキャンプでの活動プログラムを体験することにより、自然体験や野外活動に対する視野を広げるきっかけを作ることができると考えられた」(西島、2007)といった考察を得ることができた。本研究ではそのような考察を踏まえ、小学校、中学校及び高等学校の教員養成課程に在籍する学生に焦点を当て、キャンプ実習の体験が教員を目指す学生にどのような影響を与えるのかについてキャンプ前とキャンプ後での意識調査を行い、その結果を検討することとした。

研究の目的

本研究では小学校、中学校及び高等学校の教員を目指す学生に対して行ったキャンプ実習前後の意識調査の結果を報告することを目的とした。

研究の方法

本研究は鎌倉女子大学児童学部教育学科授業科目キャンプ実習に参加し、アンケートの回答を得られた2007年度教育学科1年生26名と2008年度教育学科1年生56名の計82名を対象とした。本研究の調査では対象者にキャンプの事前(pre)と事後(post)でそれぞれアンケートを取った。

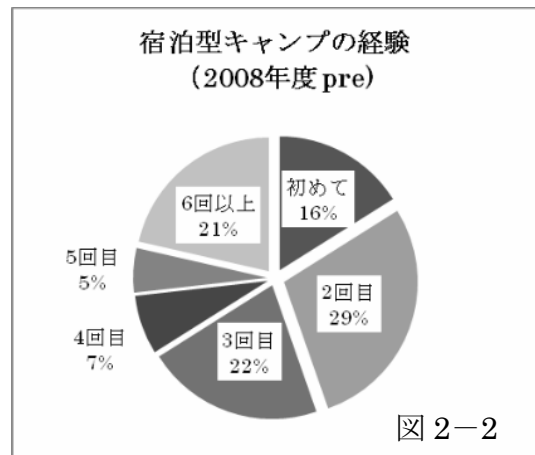
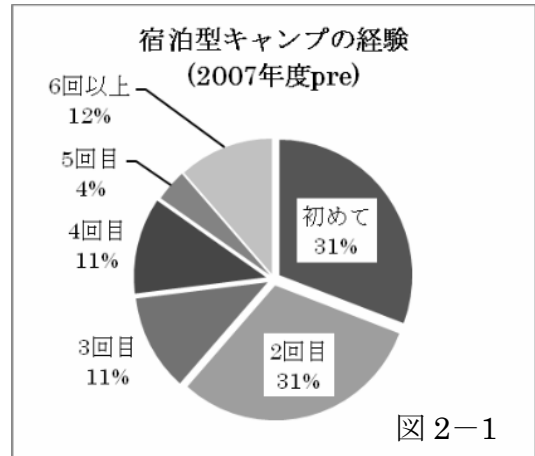
2007年度のキャンプ実習は9月21～24日の3泊4日、2008年度は9月20～22日の2泊3日の日程で、それぞれ千葉県の大房岬少年自然の家において実習が展開された。また、実習前には学内で事前学習を目的とした講義が行われた。

事前アンケートについてはキャンプ初日の大学からキャンプ場までのバスの中で、事後アンケートはキャンプ最終日のキャンプ場から大学へ帰るバスの中で配布をし、回答を得た。これらのアンケートはすべて無記名とし、評価の信頼性を高めることに努めた。事前・事後のアンケート作成においては、田中ら(2006)の「自然学校事前アンケート」及び「自然学校事後アンケート」の評価項目を一部参考にした。

結果と考察

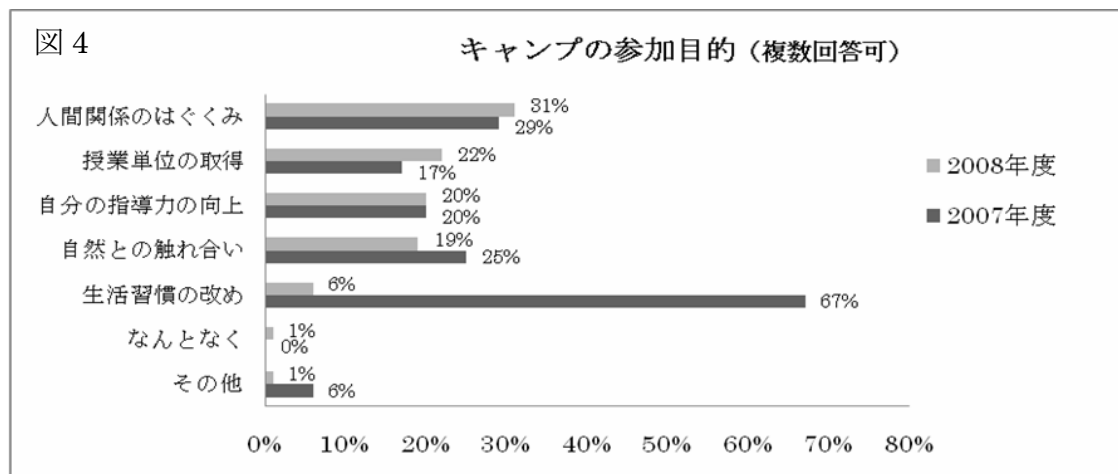
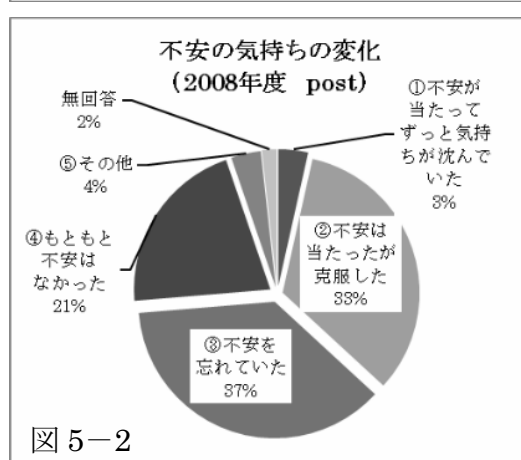
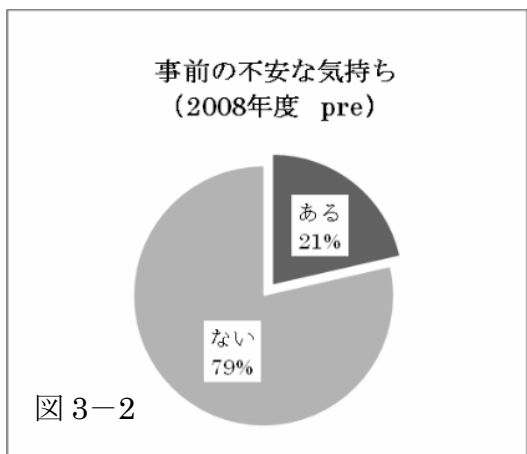
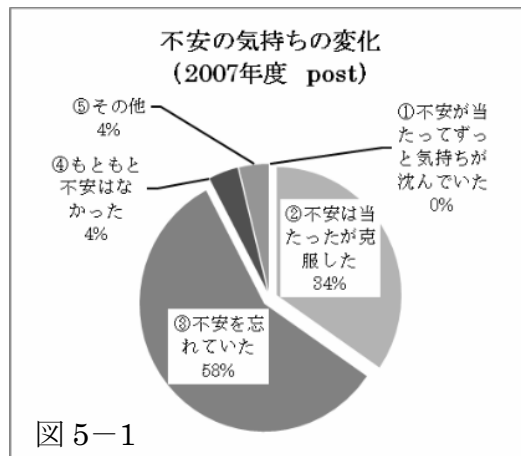
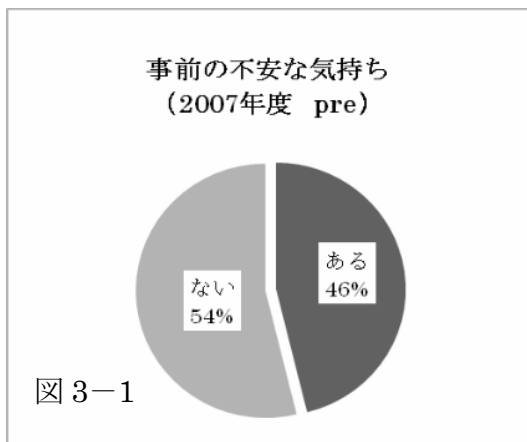
まず事前アンケートにおいて対象者の特性やキャンプに対する考え方に関する質問を行った。「こ

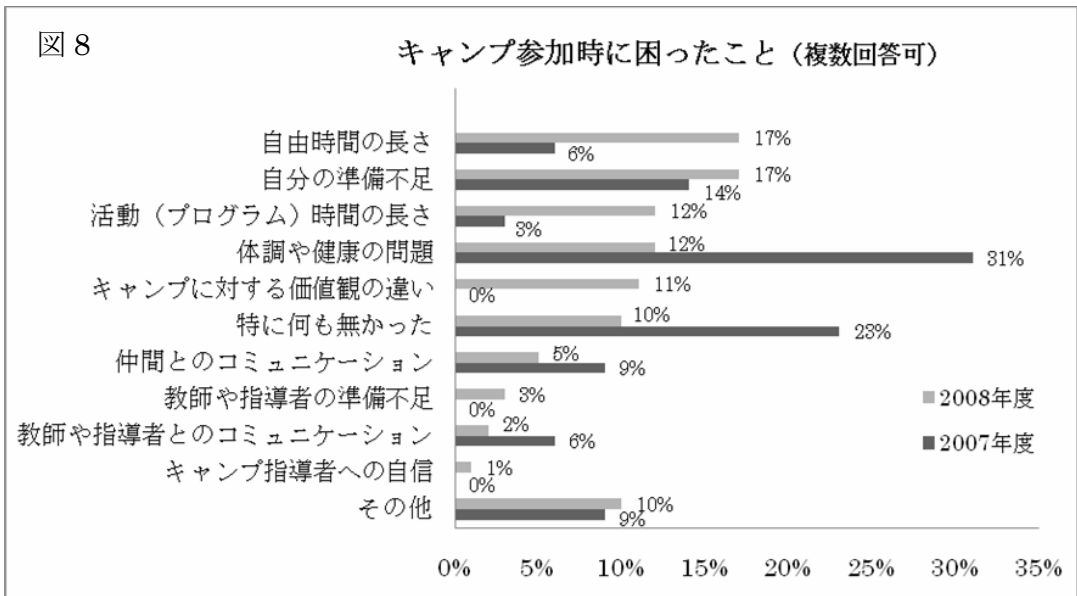
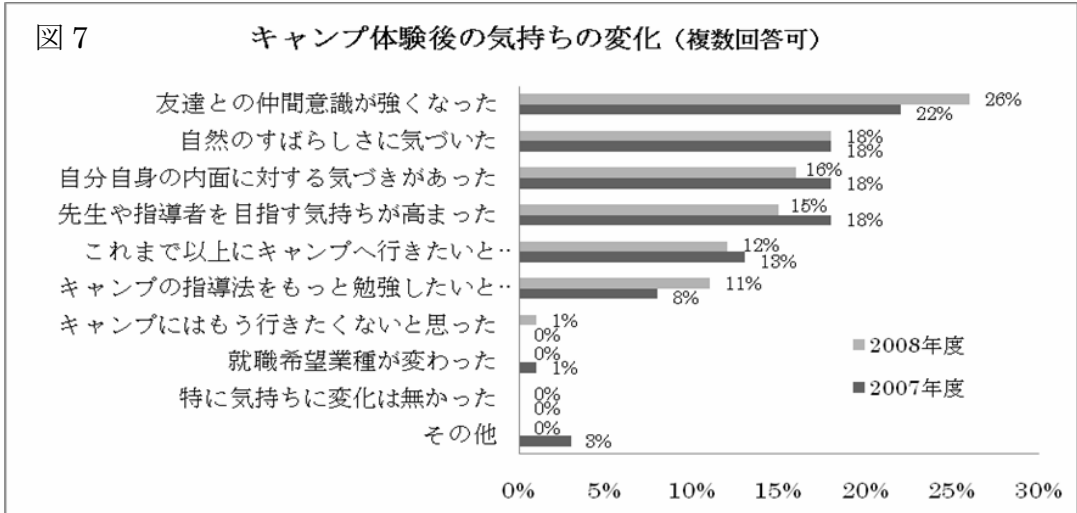
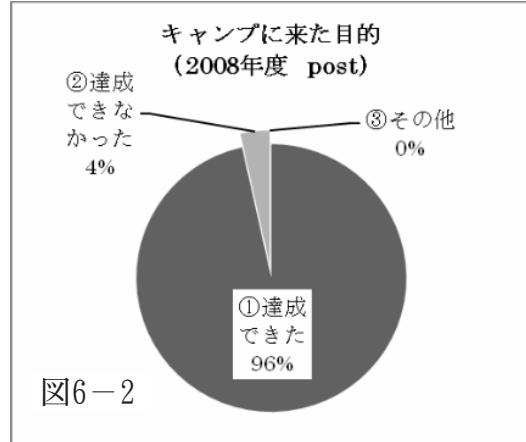
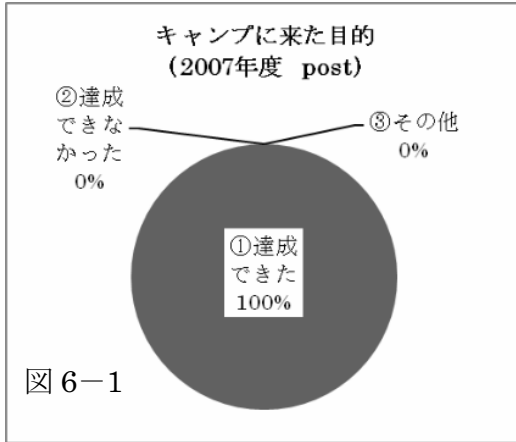
れまで宿泊型キャンプを行ったことがありますか?」という質問を行ったところ、宿泊型キャンプの経験が初めてという学生の割合は2008年度よりも2007年度の方が多かった(図2-1,2)。また、それ



に伴い「キャンプを前にして不安な気持ちはありますか?」という質問に対して「ない」と回答した学生の割合も2008年度の方が多という結果であった(図3-1,2)。「今回のキャンプは何を目的に参加しましたか?」という質問については、2007年度では「生活習慣の改め」といった回答が特に多く、2008年度では「人間関係のはぐくみ」や「授業単位の取得」、「自分の指導力の向上」、「自然とのふれあい」といった回答が多く見られた(図4)。

事後アンケートの「キャンプ前に不安だった気





持ちはどうなりましたか？」という質問に対しては、「不安を忘れていた」や「不安は当たったが克服した」という回答が2007年度、2008年度とも多く見られた（図5-1,2）。「今回キャンプに来た目的は達成できましたか？」という質問については、2007年度、2008年度とも「達成できた」が高い割合を示し、「達成できなかった」という回答はほとんど無かった（図6-1,2）。

「キャンプを終えて、気持ちで変わったところがありますか？」という質問は、2007年度、2008年度とも「友達との仲間意識が強くなった」、「自然のすばらしさに気づいた」、「自分自身の内面に対する気づきがあった」、「先生や指導者を目指す気持ちが高まった」といった順で回答率が高かった（図7）。反対に「キャンプにはもう行きたくないと思った」、「就職希望業種が変わった」、「特に気持ちに変化はなかった」、「その他」といった回答はほとんど見られなかった。「キャンプに参加して何か困ったことはありましたか？」という質問については、2008年度では自由時間や準備不足といった回答が多かったのに対して、2007年度は「体調や健康の問題」や「特に何も無かった」という回答が多かった（図8）。

次に、2007年度、2008年度のそれぞれ事前事後においてキャンプに対するイメージを4段階尺度で評価してもらい、さらに年度ごとの平均（M）を求めて比較を行った（図9-1~15）。15項目の調査項目を比較した結果、15項目中12項目がどちらの年度も事前より事後の方で回答の平均値が高くなっていった。また、これらの項目の事前・事後の上昇率はすべて2008年度よりも2007年度の方が大きかった。

「楽しそう」（図9-1）、「大変そう」（図9-2）、「生活環境」（図9-6）の3項目については、2008年度の事後において事前よりも回答の平均値（M）が低くなるという結果が出た。

本研究では事前・事後で行ったアンケートの結果を示すに留めた。しかし今後研究を深め、意識変化を検討していくためには各質問項目の結果を統計処理し、分析していく必要があると考える。本調査の結果から、キャンプ日数や天候、プログラム内容の違いが小学校、中学校及び高等学校の教員を目指す学生の意識にどのような変化を与えるのかについての調査に繋げていくことができればと思う。

キャンプに対するイメージの変化（図9-1~15）

（2007年度 2008年度 - - - ）

図9-1

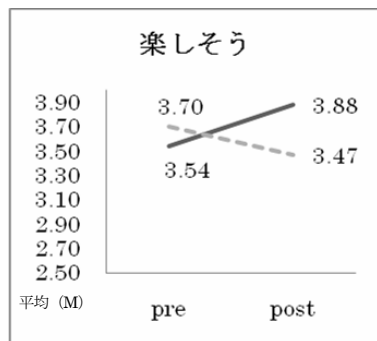


図9-2

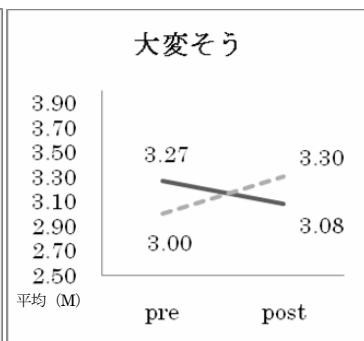


図9-3

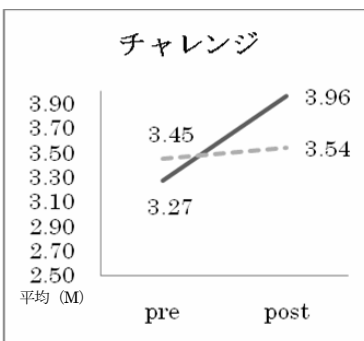


図 9-4

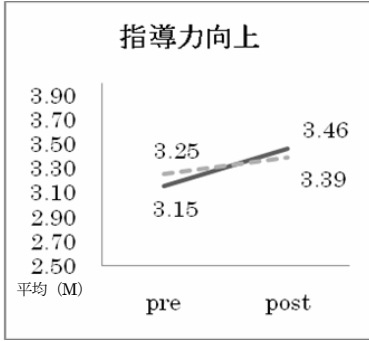


図 9-5

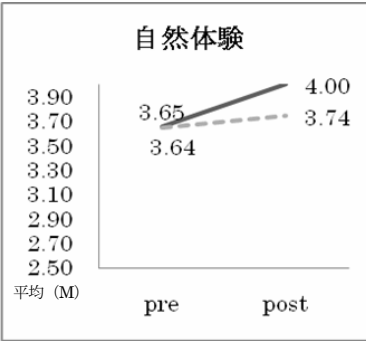


図 9-6

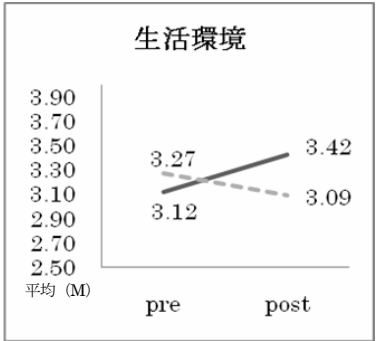


図 9-7

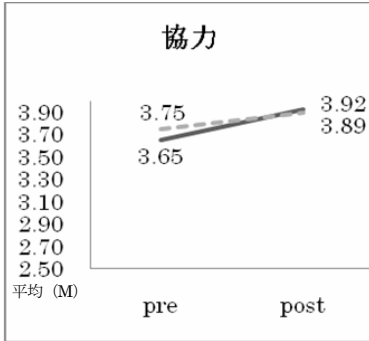


図 9-8

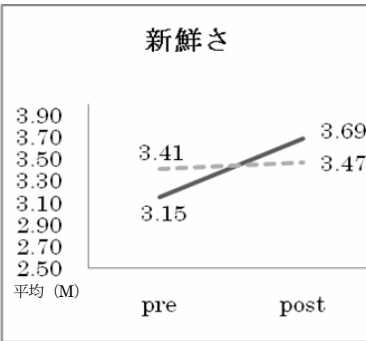


図 9-9

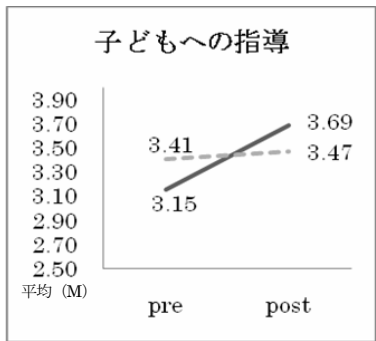


図 9-10

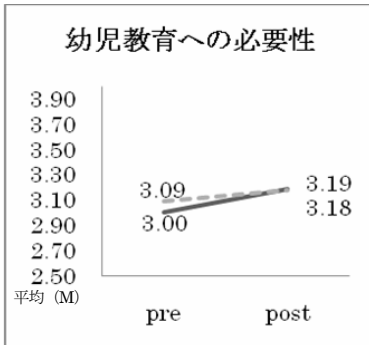


図 9-11

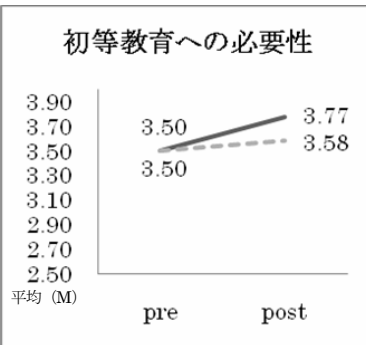


図 9-12

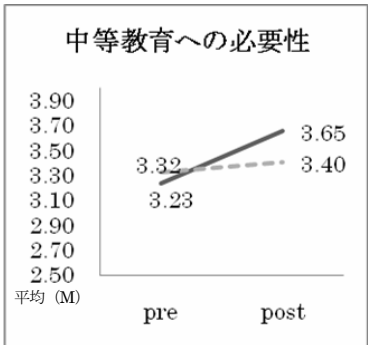


図 9-13

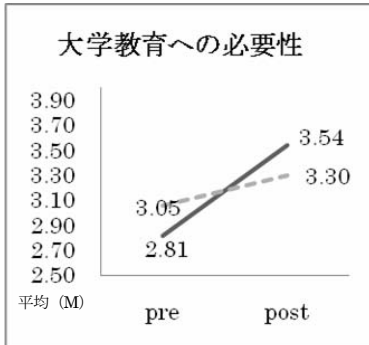


図 9-14

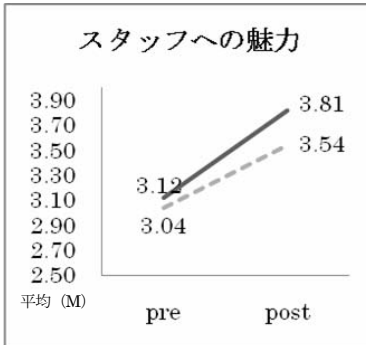
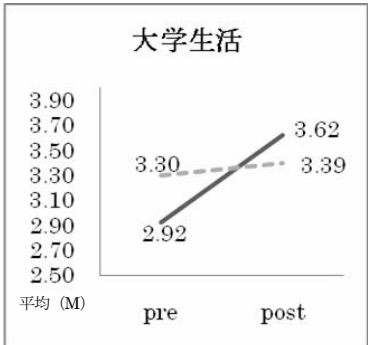


図 9-15



資料1：キャンプ事前アンケート

所属学科 教育学科 1年
 キャンプ事前アンケート

1. これまで宿泊型キャンプを行ったことがありますか？
 ①初めて ②2回目 ③3回目 ④4回目 ⑤5回目 ⑥6回以上

2. キャンプを前にして不安な気持ちはありますか？
 ①ある ②ない

3. 2. であると答えた人に聞きます。何に対する不安ですか？
 ()

4. 今回のキャンプは何を目的に参加しましたか？(複数回答可)
 ①自分の指導力の向上 ②人間関係のほぐれ ③自然との触れ合い

5. キャンプに参加する上でのイメージを教えてください。
 回答は4段階で、1は低く(悪い印象)、4は高い(良い印象)とします。

・ 楽しそう	1	2	3	4
・ 大変そう	1	2	3	4
・ チャレンジ	1	2	3	4
・ 指導力向上	1	2	3	4
・ 自然体験	1	2	3	4
・ 生活環境	1	2	3	4
・ 協力	1	2	3	4
・ 新鮮さ	1	2	3	4
・ 子どもの指導	1	2	3	4
・ 幼児教育への必要性	1	2	3	4
・ 初等教育への必要性	1	2	3	4
・ 中等教育への必要性	1	2	3	4
・ 大学教育への必要性	1	2	3	4
・ スタッフの能力	1	2	3	4
・ 大学生活	1	2	3	4

ご協力ありがとうございました。

資料2：キャンプ事後アンケート

所属学科 教育学科 1年
 キャンプ事後アンケート

1. キャンプ前に不安だった気持ちはどうなりましたか？
 ①不安が当たってすっと気持ちが流れていた ②不安は当たったが克服した
 ③不安を忘れていた ④もともと不安は無かった ⑤その他 ()

2. 今回キャンプに来た目的は達成できましたか？
 ①達成できた ②達成できなかった ③その他 ()

3. 達成できた人に聞きます。どんな目的を達成できましたか？
 ()

4. 達成できなかった人に聞きます。達成できなかった理由は何ですか？
 ()

5. キャンプを終えて、気持ちが変わったところはありますか？(複数回答可)
 ①先生や指導者を目指す気持ちが高まった
 ②これまで以上にキャンプへ行きたいと思った ③友達との仲間意識が強くなった
 ④キャンプの指導法をもっと勉強したいと思った ⑤就職希望業種が変わった
 ⑥キャンプにはもう行きたくないと思った ⑦自分自身の内面に対する気づきがあった
 ⑧自然のすばらしさに気づいた ⑨特に気持ちに変化は無かった
 ⑩その他 ()

6. キャンプに参加して何か困ったことはありましたか？(複数回答可)
 ①仲間とのコミュニケーション ②教師や指導者とのコミュニケーション
 ③キャンプに対する価値観の違い ④活動(プログラム)時間の長さ
 ⑤自由時間の長さ ⑥体調や健康の問題 ⑦自分の準備不足
 ⑧教師や指導者の準備不足 ⑨キャンプ指導者への自信
 ⑩特に何も無かった ⑪その他 ()

7. キャンプに参加して特に良かった点は何か？
 ①自分自身に対する気づき ②人間関係に対する気づき ③自然に対する気づき
 ④その他 ()

まとめ

本研究は鎌倉女子大学児童学部教育学科授業科目『キャンプ実習』に参加した2007年度1年生26名と2008年度1年生56名の計82名を対象にして行った、キャンプ実習前後の意識調査の結果の報告を目的とした。

調査の結果、キャンプ体験後の気持ちの変化には「友達との仲間意識が強くなった」、「自然のすばらしさに気づいた」、「自分自身の内面に対する気づきがあった」、「先生や指導者を目指す気持ちが高まった」などの回答が見られた。また、キャンプに対するイメージにもキャンプ前とキャンプ後で違いが見られた。

本研究では事前・事後で行ったアンケートの結果を示すに留めたが、今後この調査結果をもとに各質問項目に統計処理を行うなどして、対象者の意識変化を分析・検討していきたい。今後対象者数を増やすことによってさらに正確なデータを得ることもできるだろう。またキャンプ日数や天候、プログラム内容による意識変化も検討していけれ

8. キャンプに参加して反省すべき点はありましたか？
 ① あり ②ない

9. 8. であると答えた人に聞きます。それはどんな点ですか？
 ()

10. 今のキャンプのイメージを教えてください。
 回答は4段階で、1は低く(悪い印象)、4は高い(良い印象)とします。

・ 楽しそう	1	2	3	4
・ 大変そう	1	2	3	4
・ チャレンジ	1	2	3	4
・ 指導力向上	1	2	3	4
・ 自然体験	1	2	3	4
・ 生活環境	1	2	3	4
・ 協力	1	2	3	4
・ 新鮮さ	1	2	3	4
・ 子どもの指導	1	2	3	4
・ 幼児教育への必要性	1	2	3	4
・ 初等教育への必要性	1	2	3	4
・ 中等教育への必要性	1	2	3	4
・ 大学教育への必要性	1	2	3	4
・ スタッフの能力	1	2	3	4
・ 大学生活	1	2	3	4

11. これから指導者としてキャンプを行う上でのイメージを教えてください
 ・ 楽しそう 1 2 3 4
 ・ 大変そう 1 2 3 4
 ・ 自分の指導力 1 2 3 4
 ・ 指導者としての自信 1 2 3 4
 ・ キャンプへの気持ち 1 2 3 4

12. 今回のキャンプで特に印象に残ったことは何か？
 ()

ご協力ありがとうございました。

ばと思う。本研究を発展した授業実践研究とできるよう、今後も調査研究を継続していきたい。

参考文献

- 1) 岡島成行、関智子『自然体験活動の指導者制度導入が農山村の活性化に及ぼす影響—CONE初級指導者（リーダー）を事例として—』野外教育研究、2006、p.72
- 2) 田中利明、矢部京之助『自然学校における指導補助員の教育的効果について』野外教育研究、2006
- 3) 西島大祐『幼児教育者養成プログラムとしての組織キャンプの可能性』鎌倉女子大学紀要、2007
- 4) 西島大祐『幼児教育者の要請を目的とした組織キャンプの効果に関する一考察』鎌倉女子大学紀要、2008
- 5) (社)日本キャンプ協会調査研究委員会キャンプ全国調査プロジェクト『キャンプのちから—日本の青少年を育むキャンプが目指す姿とは—わが国のキャンプスタンダードの開発に関する調査研究報告書 平成19年度文部科学省委託事業「青少年の意欲を育む体験活動に関する調査研究」』(社)日本キャンプ協会、2008

要旨

鎌倉女子大学児童学部教育学科授業科目『キャンプ実習』に参加した2007年度1年生26名と2008年度1年生56名の計82名を対象にして、キャンプ前後の意識調査を事前・事後アンケートによって行った。

その結果、キャンプ体験後の気持ちの変化には「友達との仲間意識が強くなった」、「自然のすばらしさに気づいた」、「自分自身の内面に対する気づきがあった」、「先生や指導者を目指す気持ちが高まった」などの回答が見られた。また、キャンプに対するイメージにもキャンプ前とキャンプ後で違いが見られた。

今後この調査結果をもとに対象者の意識変化を分析・検討していきたい。

(2008.10.23受稿)